



神戸市制 100 周年記念インタビュー

ハイカラ神戸の源流



街に漂う異国の薫り
海を超えてやってきた
ファッション、洋菓子、家具…
そんなハイカラの真髄を
セピア色の想い出とともに
今、ここに再現します。

THE ORIGIN of KOBE ハイカラ神戸の
源流

ハイカラ神戸の源流

戦前からハイカラ
だった「元町」

永田良一郎さん
△欧風家具 永田良介商店会長▽

三宮神社の西、大丸神戸店前に欧風家具「永田良介商店」が店を構えたのは明治5年。4代目に当たる現会長・永田良一郎さんは生粋の神戸っ子である。しかも、ゲタ履きで「元ブラ」を楽しみ、子供の頃から馴れ親しんだ元町界隈への愛着は人一倍強い――。

★市電に乗らず「ちょっと元ブラして来た」

戦争が始まつたときは神戸一中の生徒でした。連隊はなかつたけれど憲兵隊が湊川公園付近にあつた割には、この辺りは自由で洒落た雰囲気が漂つていましたね。元町の裏通りには音楽喫茶もあつて、監視の目を盗んでよく行つたものです。ジャズなど、敵性音楽と言われながらも、皆んな聴いていたんじやないですか。またコーヒーは本当によく飲みました。

当時、三宮神社の境内は今よりずっと広く、コーヒー

店をはじめ関東煮、すし、うどん、雑貨、射的、活動写真、寄席など実に70軒もの店がひしめき合つていました。なかでもコーヒーハウスが最も多く、一杯が5銭、高い店でも10銭という安さ。自信を持つて言えますが、当時はもちろん今でも、コーヒーは神戸が一番だと思います。映画もよく観ました。封切りものは新聞地で観ましたが、三宮神社境内の館へも何度も通つたものです。チャップリンの「モダンタイムス」「街の灯」や「オーケストラの少女」それに邦画では長谷川一夫の「雪之丞変化」なんかをドキドキ胸を躍らせながら観ていました。

新聞地からは多聞通りを歩いて帰つて来ましたね。市電があるにもかかわらず商店街をぶらぶらして帰るわけですが、その頃「元ブラ」なる流行語もありました。大丸を起点に元町通りやトアロードを歩くのが流行つたんです。「どこへ行って来たんや」「ちょっと元ブラして來たんや」という風に。バーマをかけた女性も多く見かけられたり、服装も割と自由に着こなしていたようになります。その点では町全体がモダンでした。

もう一つ忘れない想い出として、昭和18年12月、神戸一中と二中の最後のラグビー試合があります。それまでの定期戦では二中に全く歯が立たず、ボロくそに負かされるのが常でしたが、どういう風の吹き回しかそのときは0対0の引き分け。校長先生に褒められたことを今でも覚えています。ラグビーは中学、予科、大学を通じて9年間やり、現在は一中ラグビー部OB会の会長をさせてもらっています。

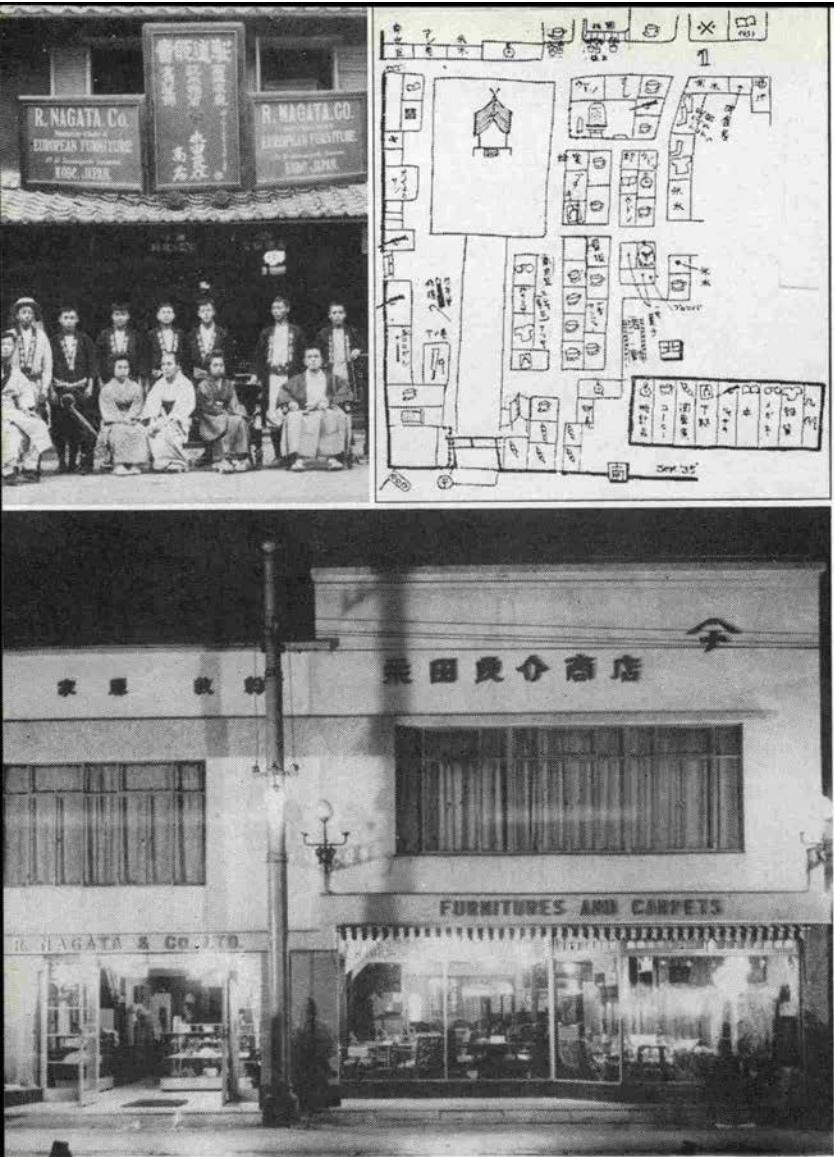
★今こそバタ臭さを強調・演出してほしい

終戦を迎えたとき辺り一面は焼け野原でした。食糧難の混乱のなか国鉄高架沿いにヤミ市が立ち並び、ようやく復興のきざしが見えてきたのは、以前からの商店が復活し出した昭和23～24年ごろ。その頃にはもう帽子を被り、手袋をして、イヤリングやブレスレットを身につけた女性たちが颶爽と歩く姿も珍しくなかつたですね。

以前は町の中心部に人が住み、町内会があり、祭りには山車を引っ張り、盆踊りもやつた。町としての行事があり、そこに人が住んでいるという息づかいや匂いがあった。つまりどこか温か味のある“町”でした。それが商店街という“街”に変わってしまい、綺麗になりすぎたように思います。外から入ってくる人が増える一方で前から住んでいた人が郊外へ流出していく——。神戸の今昔は町と街の違い、どちらが良いも悪いもそれに尽きるのではないかですか。子供の頃からずっとこの場所で暮らしてきた私たちの次の世代で、他所へ離れていった人は多く、地元に対する愛着の度合いも全然違うと思います。以前は仕事の場すなわち生活の場だったのが、今はそうではなくなっている。中心部に人が住む、それも若

い人が住む街であつてほしいですね。このことは地域の活性化を考える上でのポイントでしょう。さらに神戸全体の活性化を考えた場合、街の特色であるバタ臭さを目一杯強調すること、演出することが必要ではないかと思います。というのは、港を通して外国文化が入ってきて、自然に出てきた雰囲気がハイカラとかモダンと呼ばれるものであったわけです。ところが戦後市街化が進み、発展するにつれて、残念ながらそれが薄れてきた。他の都市と同じようになってきた。昔の良さを取り戻すというのもむずかしい以上、神戸の特色を活かした、神戸らしい演出方法を今こそ考えるべきでしょう。

右上／戦前の三宮神社境内の略図（神戸・つ子・昭和10年10月号より）
左上／明治39年、一家揃って記念撮影
下／昭和10年ごろの永田商店、店の前には市電が通っていた



THE ORIGIN of KOBE ハイカラ神戸の
源流

ハイカラ神戸の源流

外国人の生活文化
がハイカラの源流

福富 芳美

△神戸ファッション専門学校長▽

★北野、トア・ロードは

外国人が住むためにつくった住宅とお店

私が住んでいた坂の北野町限界は、異人館や高級ブティック、レストラン、おみやげ店などで賑わう観光的な街になってしまったが、昔は、神戸にやって来た外国人が、住むために北野村を拓いた住宅地でした。だから日本人は殆んど住んでいない静かな限界で、人通りも少なく、その道端で外国人の子供たちが時どき遊んでいたのを見かける風景は、私の好きな散歩道のひとつでした。現在の大丸神戸店のあたりから南は、まだ居留地と呼ばれて通じる頃で、外国人の商館が沢山ありました。

★国際人として堂々とわたりあえる神戸っ子に

この商館へ、北野町の自宅から通勤する坂道として自然に出来たのがトア・ロードではなかったでしょうか。トア・ロードは、外国人がそれぞれ自国の雰囲気を持ち

こんだような、おおらかなブティックや、宝石商、アクセサリー店、舶来生地屋があつて、今あつてもすてきなお店ばかりでしたし、神戸外国人俱楽部はトア・ホテルとしてすべてが西洋人のための建物であつたのです。それから、生田神社の南には、ベルモード帽子店があつて、私が洋裁を勉強し始めた頃、よくウインドウをのぞき、小野の洋服生地店もあつて、おじさんとよくだべりました。紺谷さんという美容院が、生田神社の鳥居の東南にあつて、ここは日本で初めてパーマネントをとり入れた店でした。今のダイエー東京銀行などのある山側にはステーキの甲陽館、外国人の欲しがるイギリスのリバティ商会の、ローン服地や、縁かざりの珍しい附属品が奥深い店に積重ねられていたり、その隣りは鮮やかな毛糸ばかり売っているマリヤ毛糸店、角にあつたのがドイツ人のユーハイム菓子店だったと思います。すべてこのあたりは外国人が生活していたところで、外国人が欲しがるものが揃っていました。

元町は、神戸らしい日本人が作ったショッピング通りで中村ネル屋、松本シルクストアや、ヤタナカオ、サノヘなど今も健在な店が沢山ありました。シルクストアの松本などは、四十二インチ巾のシルクの巻きがずらつと並び、日本人では、とても入れないような風格がありました。

神戸がハイカラといわれるのは、イギリス、オランダ、ドイツなどヨーロッパのクラシックな服飾品や、中國テーラーなどがあつたという流れと、映画、ゴルフ、パークメントなどのはじめ物語をもつ直輸入そのままで、それは手のとどかない憧れでもありました。外国人のハイカラのスピリットを受けついでいるのだと思います。

戦前から、私たちの遊びは六甲山への山のぼりや、須磨の海へ行って遊び、ことに摩耶山、再度山、布引やトウェンティクロスなどへはよくのぼりました。だから自然の中で息づくスポーツウェアに強い街です。

また、戦後のセンター街はヤングのために出来た細い通りでしたが賑やかで活気に満ちていました。昭和三十年から四十年代になって、ブティックでも洋服が買える時代になり、プレタのメーカーであるワールド・ジャバ、オールスタイルなど神戸でつくるとステキという評価を全国的に得て、ファッショントンタウンの街開きをこの秋に迎えるという凄い成長ぶりを見せました。

北野町界隈は、最近すてきな高級ブティック街にな

り、三宮から新神戸オリエンタルホテルへのフラワードが英国屋、芦田淳、トルソなどスケールのある店が出てきましたので、新しいファッショントリにないのでないでしょうか。

今、神戸はスケールの小さいファッショントリの専門学校が多いのですが、センスは抜群、神戸っ子は大阪へ行かないで神戸で勉強してほしいし、私達も神戸の雰囲気を持つ学校でありたいと念願しています。

そして、たとえ日本語でも外国人と同じ感性で、自信を持つて話しが出来、国際的に堂々とわたり会える人間を育てる町であります。

■右上／S24~25年頃の加納町2丁目電停付近。下／S25~47年頃の校舎全貌。左上／S24年八千代劇場に於いて。



THE ORIGIN of KOBE ハイカラ神戸の
源流

ハイカラ神戸の源流



“文化的なタウン
づくり”の視点を

内海 重典 さん

△宝塚歌劇団理事・演出家▽

歌劇はもちろん、大阪万博や神戸ユニバーシアードなどさまざまなビッグイベントの演出を手がけてきた内海重典さんは、大阪生まれの神戸育ち。神戸には懐い想い出が一杯あるという内海さんを、さきごろ、宝塚市の閑静な住宅街にあるご自宅におじやました――。

★夏休みの楽しみは「須磨へ海水浴」

小学校5年のとき家が元町近くへ移り、20年ほど前に宝塚へ来るまでずっと神戸に住んでいました。学生の頃は毎日元町をプラプラしないことは気が済まないくらいで、街路にスズラン灯がともるムードのある街並みは、とにかく心ひかれるほど好きでしたね。当時、三星堂の1階に評判の喫茶店があつて、よく足を運んだものです。店長さんの主義で月曜はライスカレーのみ、いたユニークなお店なんもありましたから……。

新開地の「キネマ俱楽部」で週一回、淀川長治さんが

映画の話をされていましたが、私もよく聴きに行つて、次第に芝居や映画に興味を持つようになりました。そのことが、宝塚歌劇に入った遠因と言えなくもないと思います。

もう一つ学生時代の想い出として忘れられないのは、毎日のように須磨へ海水浴を行つたことですね。夏休みの期間だけ半額で往復できる学生割引キップがあつて、何より楽しみにしていたもの。今はすっかり整備されて変わつてしまましたが、当時の海岸は自然のままで情趣豊かでしたよ。船舶の発着港として近代化された半面で海に親しむことが少なくなったように感じます。

逆に北野町などは、街が整備されたことによつて情緒が滲み出でてきたのではないでしようか。異人館は前からありました。それだけ神戸の街は、外国人が歩いていても違和感を覚えないハイカラな雰囲気が、ごく自然に醸し出されていたということでしょう。

★人を寄せつける“工夫”がほしい

神戸の人は、再度山の早朝登山が今なお続いていることを見ても、山を愛する心に不足はないと思います。同時に港・海への愛着も強い。つまり、地形的に自然に恵まれた街であるわけで、それが反映してか、人々の暮らしにも明るさが感じられますね。ところが近代化が進んだことによつて、たとえば登山道がハイキングコースとなつて、車で頂上まで登るのが普通となつてしまつたよう、形態が変わつてきました。そして残念なことに情緒が薄れつきました。

三宮センター街もそうです。言葉が悪いけれど、戦前はずいぶんキタナイ店が並ぶ狭い通りだったのが、今やから整然たる街へと発展したわけですが、半面、失つたものも少なくない。駅前に人力車が人待ち顔に並んでいた、あの何とも言えない風情は、今どこを搜しても見当

たりません。時代の流れを感じますね。

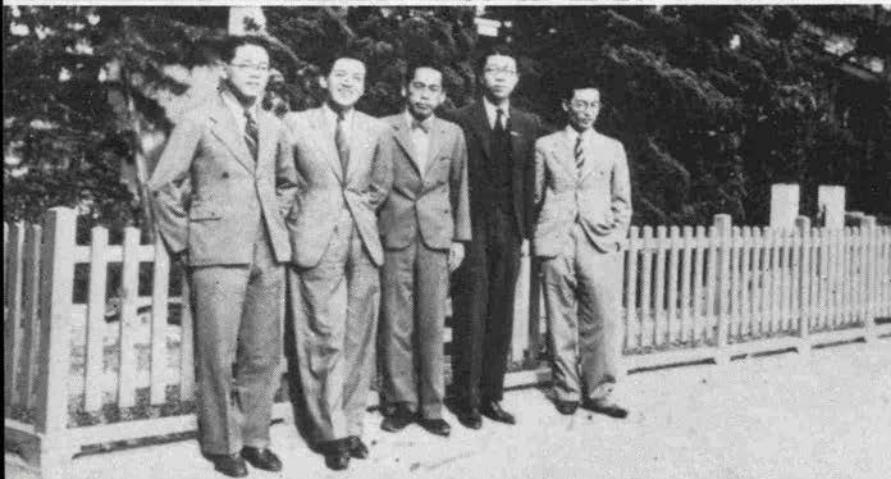
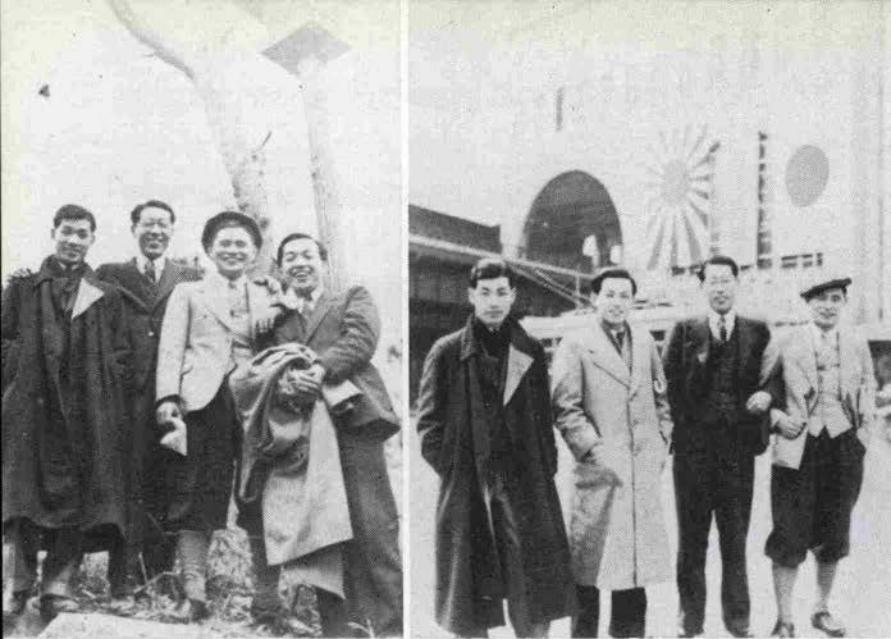
とはいえばポートピアランドの建設に対しては、そのアイデアの良さ、見事な開発ぶりに賞讃を贈りたいと思う一人です。ファッショントータウンとして位置づけ、開発しようという狙いもよく理解できるところです。その意味で多くの専門店が進出するのはいいけれども、プラプラ歩きながらショッピングを楽しめるような集合体になつておらず、個々に散らばっている点が惜しい。タウンとして人を寄せつけるもう一段の工夫・配慮がほしいと痛切に感じます。

それと、神戸に文化的な施設がもっとあればいいと思

います。これから神戸に期待することの一つは文化面の充実であり、文化的な街づくりです。「文化とは何か」を今一度根本から考え方直し、その視点に基づいた方法を探る必要があると思います。

加えて、JR東海道線は以前神戸が始点だったのが今は大阪に移ってしまったこと、あるいは名神高速道路が神戸の手前の西宮止まりとなつていることも、神戸びいきの私には「何とかならないか」と思われて、残念でならない点ですね。

■右上／阪急三宮駅付近で（左から2人目が内海さん）左上／須磨銀光ハウスにて右端が内海さん 下／母校・神戸小学校を訪問（左から2人目が内海さん）—いずれも昭和12・13年ごろ—



THE ORIGIN of KOBE ハイカラ神戸の源流

ハイカラ神戸の源流



よそのやらない
ことをやる：

柴田 高明

（株）柴田音吉商店
取締役社長

「日本の近代化の窓口となつて欧米文化を取り入れて来た“ハイカラ神戸”。市制百年の歴史を背景に、その歴史とともに歩み続けた洋服店がある。創業明治十六年、現在、元町四丁目浜側の角に店を構える柴田音吉洋服店がそれである。近代洋服発祥の地とされるミナト神戸で百年を越える歴史を生き、業界のバイオニアとして多彩な発展を遂げてきた柴田音吉洋服店。その三代目社長、柴田高明さんにお話しをおうかがいした。

★中学生の趣味やないか！

ハイカラというと、まず懐かしく思い出すのは元町の鈴蘭燈。あれは神戸独特のものだったですね。できたのがちょうど私の父の時代で、父が元町通りのみなさんと「ここに鈴蘭燈がつくんやで」なんて言いながら設計図を持って走りまわっていたのを供心におぼえていますよ。もう六〇年ぐらい前のことになりますが…。

学校はね、今の神戸大学、当時は神戸商業大学と言つ

てましたが、その出なんです。私たちの前は高商と呼ばれてましたけど。住居はいろいろと変わりましたが、昔は諏訪山の下に武徳殿という所がありまして、その下に住んでおりました。それから垂水の海岸の所に住んだりね。今は昔屋ですけど…。

映画が好きですね、大学時代はよく授業をさぼって新開地の映画館に見に行つたんですよ。帝人の社長、会長をして、いま相談役をしている徳末君というのがいましたが、彼が相棒でね。私も今でも、テレビで昔の映画をやってたりするとビデオでとつて楽しんでるんですよ。

それとヨットですね。これも六〇年前のことになりますが、父がヨットを持ってまして、日本人では二隻しかなかつたんじゃないかな。いま乗つてるのが戦後から数えて四隻めぐらいだと思いますね。後はキャンピングカーで走りまわつたり…、友達からは「お前、いつまでたつても中学生の趣味やないか」と笑われるんですが…。

★ハイカラは本当にはずかしい！

西洋との接点と言えば、やはりオリエンタルホテルなんかはハイカラな接点だったでしょうね。元町通りも西洋人がたくさん歩いてましたし…。洋服の技術としても何しろ明治十六年という時代ですから、私の祖々父も、もちろん西洋人から学んで始めたんですよ。まあ、横浜にしろ神戸にしろ開港地ということでそれだけたくさんのものが上陸してこれたんですね。

父がフランスに長く留学しておりまして、ハイカラとしてね。恥かしい思いをしたことがありますよ。スコットランドの服があるんですが、それを僕と妹に着せるんですよ。それを着て歩いていると西洋人が手をたたいて喜ぶんです。小学校に入るか入らないかの時ですから時代を考えるとね…、本当に恥かしかった。

★だんだんバカになつて来るんとちやうか？

しかし、私どもの業界から言いますと、スタイルも西洋人のものをそのまま持ちこんでも日本人に合うわ

けでなし、といつて全然、外国の流行を無視して日本人にしか通用しないものを作っていてもしようがないので、唯々、外国のものをそのまま持ち込むんじやなしに、吸収したものをうまく日本化してゆくことが大切なんですね。あくまでも国際レベルに達した所ですね。

でも、私どもの所は出所がそもそも注文洋服という特殊なものをやってるんでですから、事業としてはそれで一貫してるんです。何か特殊で人のやらないもの、高級なものを扱ってるんですから、あまり事業に動きがでてきません。しかし、その"よそのやらない特殊なもの"をやる"というのがうちの方針であり、私の趣味にも合

つますね。だから銀行なんかが来て、「百年やつて、三代続いて、初代、二代、三代とだんだんバカになってるんとちがいますか」と言われて大笑いすることがあるんですよ(笑)。その点では規模はいつまでたってもたいして大きくなりませんなあ。

ただし、仕事を続けて行く以上、どうしても最近は東京が重点になつて来ましたね。ただ、東京に行くからと言つて、この神戸は忘れません。神戸の人間であつて、東京で活躍するということを忘れてはなりませんねえ。

■写真・上／三代目高明社長(左)と弟の植三さん。下左／明治三七、八年頃、元町三丁目山側にあった柴田音吉商店。下右／大正七年に作られた藤田男爵着用のフロックコート。



THE ORIGIN of KOBE ハイカラ神戸の源流

ハイカラ神戸の源流

現代フランス
料理は五味五色

石坂 勇さん

ヘオリエンタルホテル・13代目総料理長▽

オリエンタルホテルが伊藤町百二十一番館に、仏人ルイ・ビゴ氏によって開業されたのが明治十五年。以来、我が国一流のホテルとして神戸に君臨し、その雅趣豊かな建物は今もなお歴史を刻み続いている。当ホテルで二十年、総料理長を勤める石坂勇さんにおうかがいした。

★“これでは戦争も負けるわい”

戦災でオリエンタルホテルは焼けて跡形もない頃、今 の神戸俱楽部がある場所に、進駐軍の将校の宿泊所に働いていた友人の紹介で、今のオリエンタルホテルの支店にあたる“グロスター・ハウス”と呼ばれた英人、豪人、ニュージーランド人の休息設備所（現在はカナディアンスクールが建っている）にお世話になりました。もともとキッキンが小さいのにたくさんの方がこられますので、裏にキッキンを増築したんですが、冷房も暖房もありませんし、山の高台に面しているんでかなり冷えるん

です。そこへ毎朝、朝の五時から下駄履きで、当時の石炭ストーブに前日の灰（石炭ガラ）をおとして、木を燃やし、石炭をいれていく作業で、寒さが身にしみたことを今だに覚えています。

料理を通じて西洋と接した中で、特に“物量の違い”というのを感じました。要するに食べ物、着る物にしろ例えば軍隊にしても、私達が日本の軍隊の人を見ていました以上に物も、量も非常に豊かだなあと思いました。中でも私がおりましたグロスター・ハウス、次に移ったアメリカ系の所ではそれ以上に“物量の違い”を思い知らされ、子供ながらに“これでは戦争も負けるわい”と思つたこともあります。

★トンカツ、串カツ、戦後の洋食

神戸市制百年にちなんで、「一世紀の食卓」と題して旧居留地時代のメニューを再現したんですが、昔の味は現代とくらべて幾らか濃く、濃縮なんです。現代の方はあまり体をハードに使うことを必要としませんので塩分もとらなくていい、脂肪もとらなくていいんで、おのずから淡白な味になるんですね。それと料理に“派手さ”がない、例えは我々が教わった時には、一つの豆にしてもよく味をしみこませる。そのためよく煮なければいけない、そうすると自然に豆の色もあせてきます。ところが、現代は味もさることながら、五味五色、色彩感覺も重要視されます。本来、食べておいしいのは昔風の方なんですが、それだけ舌の感覚も変わってきたんですね。

終戦後、配給制度があった時代に、ホテルは特別に申請を許可されたんですけど、一般的の店では派手な商売ができなかつた。それがだんだん解かれていって、あの当時トンカツ、串カツ等の日本風の洋食が中心になって、戦後の洋食が発展していきました。今日の様にフランス料理が重要視されるようになつたのは、だいたい二十年前ぐらいからなんです。有名なフランスのシェフが、バ

カンスを兼ねていろんな講習会をしてまわったのを見て若い日本人が影響をうけ、どんどん海外へ出て行き、勉強して帰ってこられた方が小さなピストロを構えたのをボツボツ見うけられるようになりました。

しかし、まだあの時代には日本人向けのものが少なくて一部の人しか味わえなかつたようです。

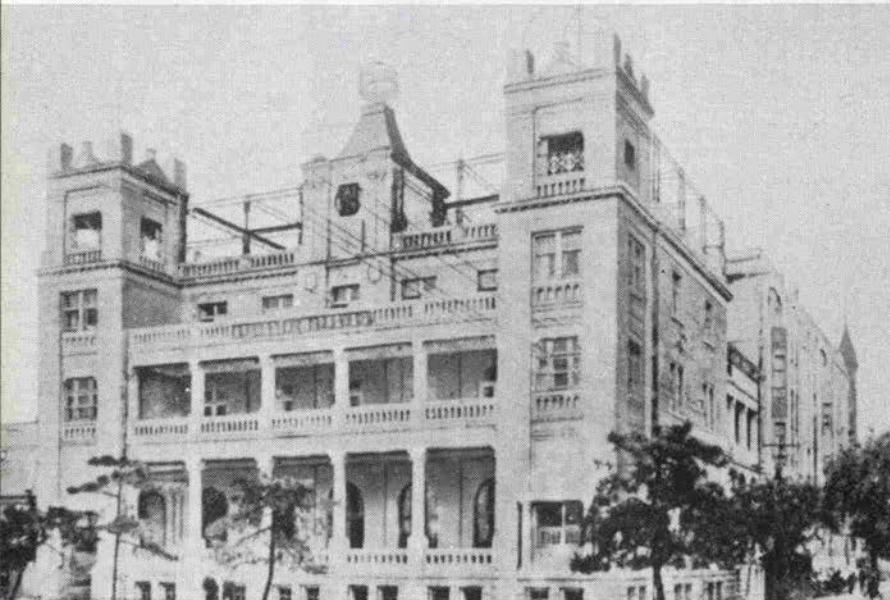
★ホテル競争激化!

ポートピアホテルができるまでは、私どもオリエンタルの独占状態であったんですが、六月にはホテルオーラーも参入してきますし、今以上に競争が激しくなること

が予想されます。今までもそうですが、これからはもう多勢に負けぬよう研究し、勉強する事が要求されてきます。またオリエンタル伝統の味を再現し、加味してゆこうと考えております。

最近は交通ルートも改善されて、観光も活発化しておリ神戸にこられる方々の舌もこえてきているように思います。それに、地元に住んでおられる方々にグルメがたいへんに多うござりますので、ますます勉強が必要ですね。

■写真右上／当時のキッチン風景
左上／石阪さんの作品
下／明治40年、建設されたホテル



THE ORIGIN of KOBE ハイカラ神戸の源流

神戸市制100周年記念インタビュー

ハイカラ神戸の源流



筋曲がれば芝居小屋の裏手に出るといった下町。まわりの友達が黒朱子の襟をかけている中に、私が神戸でつくった服を着て、ゲートルをして学校へ行つたら、それはもうびっくりされましたね。服装だけがハイカラではなく英語の勉強も4才の時からしていました。東京から教師を呼び今橋ホテル（現・大阪ホテル）のダイニングルームを借り切つて、週1回のレッスンに人力車に乗つて通っていました。

★神戸ファッショングの原点

昭和6年に母が喘息にかかり、転地療養の為に、神戸・岡本に越してきました。近所に作家・谷崎潤一郎先生のお宅があり、先生が大阪の倉に置いてあった琴や古い資料を探したり、母に小説中の大阪弁のチェックをうけたりして、とても親しくしていただきました。

私の娘時代は、毛皮のコートなども手作りで“佐藤装店”、“田畑洋装店”といった店で作った服を競つて着たものです。“佐藤洋装店”は亡命貴族のロシア人がトアロードにだしていたオートクチュールの店で勉強をしていた人が経営して、“田畑洋装店”は横浜の人の店でした。当時を振り返ると、まことに“いい時代”をすごしたものと思つてます。ハイカラな子供時代、いろんなお洒落をした積み重ねが身につき、色調や芸術に関するセンスが培い、ハイカラな目をもつようになつたと思ひます。それが今の職業にいつのまにか強い影響をうけたのだと思ひます。

★ムードを忘れたK O B E

私の生まれたのは大阪・戎橋、実家は紙の問屋をしており、“うちやん”と呼ばれていました。ヨーロッパの人形みたいなハイカラな格好をしていたのですが母が私にそういうお洒落をさせていたのです。

大阪から汽車に乗り、元町で降りて“子供屋”、“双葉屋”といった子供服のオートクチュール店へオーダーし、帰りがけに支那料理を食べたことを鮮明に憶えています。私のところは一筋曲がるとお茶屋があり、もう一

★生粹のハイカラ娘

妹尾 光子さん

△兵庫県洋裁学校連盟・常任理事▽

ハイカラな伝統を受け継ぐ、K O B E ファッショング。現在、兵庫県洋裁学校連盟に入られて20年あまり常任理事の妹尾光子さんは、子供のころから、ハイカラなお洒落さんだったという。当時のお洒落ぶり、今の神戸に対するイメージ等を語つていただいた。

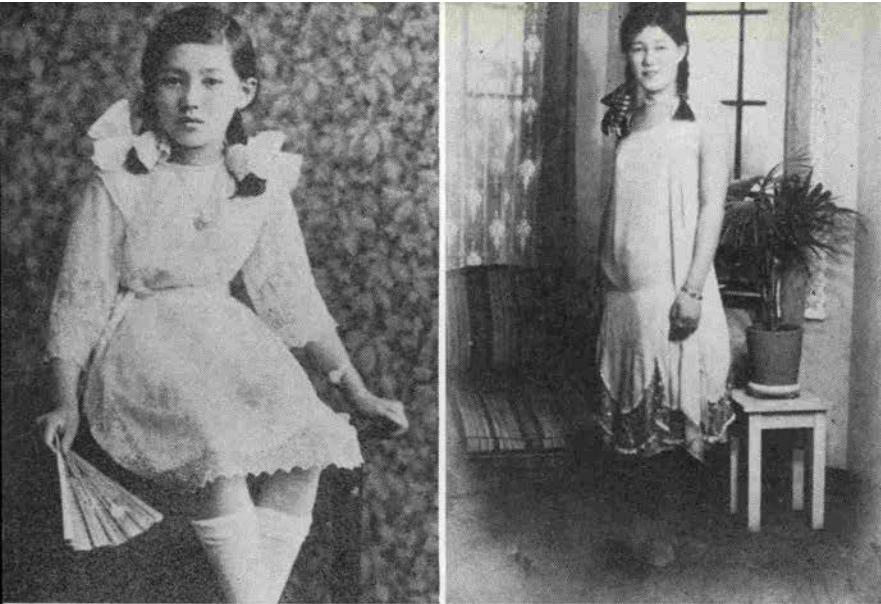
買い物をするにも、昔はその雰囲気を楽しんでましたね。たとえば、生地を買うにしても、木造りの階段を上がつて行く…そこには本当にいいものがありました。今はブレターポルテも、オートクチュールもワン・パターン。新しくなりすぎて、ハイカラではなく、"モダン"になってしまったのです。そしてみんながモダンを求め、街自体が個性を失つてしまつたように思います。

★今、試練のとき…

最近、洋裁学校の校長先生たちが、「これからどうしようか」と弱音を吐くことがあるのです。それらの学校

昭和5年、岡本にて「右上」、大正8年、子供屋で作った服をきた妹尾光子さん(左上)、昭和25年ごろ小川洋裁学院のファッショントリート

の中には専門学校にしてないものもありますから。大手企業にデザイナーを派遣するなら、それもいい…。でも今、手作りが見直されています。昔をふり返る時代がきているのです。あの時代に、学校をつくり、勉強をしたということは大へん有意義なことです。厳しい現状をがんばって、のりこえてほしい。これは、個人のことだけにとどまらず、神戸のためにでもあることなのです。



THE ORIGIN of KOBE ハイカラ神戸の
源流



この秋 WFF89 を成功させよう

<p>カネボウ ベルエイシー㈱</p> <p>代表取締役社長 菅 和昭</p> <p>神戸市中央区三宮町 1-2-1 三神ビル ☎ (078) 392-2101</p>	<p>株式会社 パール</p> <p>代表取締役 松岡 賢蔵</p> <p>神戸市中央区生田町 3-1-18 ☎ (078) 232-3333</p>	<p>竹馬産業株式会社 メルアピート事業部</p> <p>取締役社長 竹馬準之助</p> <p>神戸市中央区浜辺通 2-1-30 三宮国際ビル ☎ (078) 231-7700</p>
<p>K・F・A (協)神戸ファッショ ン アソシエーション</p> <p>理事長 木口 衛</p> <p>神戸市中央区港島中町 6-1 ☎ (078) 302-6671</p>	<p>株式会社 モード・リンダ</p> <p>代表取締役社長 三浦 幸衛</p> <p>神戸市中央区旗塚通 7-1-11 ☎ (078) 242-4141</p>	<p>株式会社 バンボーレ</p> <p>取締役社長 山中 健</p> <p>神戸市中央区生田町 1-1-22 ☎ (078) 222-1131(代)</p>
<p>K・F・C</p> <p>会長 中西 省伍</p> <p>サロン・ド・モード 中西</p> <p>神戸市中央区下山手通 3-12-17 ☎ (078) 321-3707</p>	<p>株式会社 マミー</p> <p>取締役社長 東條 隆裕</p> <p>神戸市中央区浜辺通 2-1-1 ☎ (078) 242-3811</p>	<p>マドンナ グループ</p> <p>代表取締役 清水 善之</p> <p>神戸市中央区小野柄通 6-1-9 ☎ (078) 251-6761</p>
<p>K・F・S</p> <p>会長 中島 正義</p> <p>神戸市中央区筒井町 3-7-11 ☎ (078) 231-1666</p>	<p>婦人服ソーアイングメーカー (株) 神港ドレス</p> <p>代表取締役 荒津 正美</p> <p>神戸市灘区大和町 3-1-13 ☎ (078) 851-0035(代)</p>	<p>株式会社 モードサン</p> <p>代表取締役社長 上垣 康雄</p> <p>神戸市中央区御幸通 4-8-2 ☎ (078) 251-2100</p>

Pulchrade-WORLD FASHION FAIR '89

“プルクラード”ワールド・ファッショント・フェア89美感遊創の祭典

	イベント	会場	1989年11月									
			16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日		
神戸 ワールド・ フェスティバル	ワールド・ファッショント・ コレクション	アシックスアトリウム・ ホテルオーラ神戸	*	*	*							
	バイヤーズ・ミーティング	ワールド記念ホール	*	*	*							
神 KFT 街びらき イベント	イベント (スポーツフェスティバル) セレモニー・パーティ・ ライブマルチメディアコンサート	11/30:ワールド記念ホール 市民広場・ポートビアホテル										
	企業・ストリートイベント	タウン内企業・ストリートほか										
	KOBEファッショント・パーティ	ポートビアホテル										
戸 神戸グルメ・ フェア	イベント (シンポジウム+プロムナード)	3/16 シンポジウム 3/22-24 プロムナード										
	グルメ・シンポジウム	神戸商工会議所	*									
	グルメ・プロムナード	主要レストラン・料亭	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	グルメ・パーティ	主要ホテル・旅館	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	グルメ・KOBE・セレクション	サンボーホール										
京 都	ファッショント・シンポジウム	国立京都国際会館	*									
大 阪	WFF'89記念祭	大阪城ホール										*
	ワールド・ファッショント・ コレクション	大阪城ホール、マイドーム おおさか、MIDシアター										*
	ワールド・ファッショント・ トレードフェア	インテックス大阪 マイドームおおさか										*

国際行事 1989年11月18日<土>▶▶26日<日>

都市行事・協賛行事 1989年4月▶▶11月

主催 ワールド・ファッショント・フェア神戸推進協議会

「90年代への期待」を総合テーマに十一月十六日(土)~二十六日(土)まで神戸・大阪・京都で開催されるワールド・ファッショント・フェア'89。

通商産業省の提唱のもとに、美感遊創の祭典である「もの集まり」の意味で、WFF'89はファッショント・フェア

シヨン・生活文化に關わる美しい人々や品々が多くの国から京阪神に集まり、そこから世界に向って最新の情報が発信されます。

神戸ではファッショント・フェスティバルでデザイナーが集まって交歓し、ポートアーバンのファッショントウンでは三十八企業が進出を終えて街開きイベントが繰り抜けられ、神戸の街のレストランや料理店では神戸グルメ・フェアが展開されます。

この秋
ファッショングループ
WFF'89を成功させよう

<p>株式会社 マルダイ 代表取締役社長 大内 信行 神戸市中央区三宮町2-11-1-122 ☎ (078) 331-0064</p>	<p>有限会社 装苑 代表取締役社長 藤井まつ子 神戸市灘区符軍通3-4-24 ☎ (078) 881-0907</p>	<p>学校法人 田中千代学園 田中千代服飾専門学校 校長 田中 千代 芦屋市大原町121-15 ☎ (0797) 31-0601</p>
<p>(株) MEN'S HOUSE GROUP 中村 元明 神戸市中央区三宮町1-8-1-116 ☎ (078) 331-3915</p>	<p>オートクチュール& プレタソーアイ モードアトリエ サナエ 栗山 早苗 神戸市東灘区森北町4-4-12-112 ☎ (078) 452-8777</p>	<p>学校法人 行吉学園 神戸女子大学 神戸女子短期大学 神戸女子大学瀬戸内短期大学 理事長・学長 行吉 哉女 本部 神戸市中央区中山手通2-23-1 ☎ (078) 231-1001(代)</p>
<p>ファッショングループ センター プラザ3F さんプラザ2、3F 神戸市中央区三宮町1-9-1-305 ☎ (078) 332-1698</p>	<p>教室・オーダー 着物のルネッサンス モードメイトミチコ 藤井美智子 神戸市東灘区本山北町5-13-11 ☎ (078) 431-8051</p>	<p>学校法人 福富学園 神戸ファッショングループ専門学校 校長 福富 芳美 神戸市中央区国香通6-7 ☎ (078) 241-8611(代)</p>
<p>K・F・Mファッショングループ 10月4日神戸ポートピアホテルで開催 K・F・M 会長 藤本ハルミ 神戸市中央区山本通2-13 マーガレット ☎ (078) 242-5690</p>	<p>オートクチュール エミ洋装店 張 恵美 神戸市中央区旗塚通1-1-18 ☎ (078) 241-3078</p>	<p>学校法人 横田学園 神戸服装専門学校 校長 米谷 玲子 神戸市灘区永手町2-3-17 ☎ (078) 851-3947</p>